

U

大学



長久手キャンパス

夏のオープンキャンパス開催



長久手キャンパス

愛知淑徳大学では本学を志望する受験生を対象に、本学をより理解してもらうための、オープンキャンパスを年に3回、長久手キャンパスと星が丘キャンパスで開催しています。春(5月8日)は770人、夏(7月31日・8月1日)は3027人の来場者を迎えました。

今年の夏のオープンキャンパスでは、初の試みとしてメイン会場を2日間分けて開催し、希望している学科を、よりゆっくりと味わってもらうことにしました。東海4県を始め、北は青森から南は熊本そして八丈島からと多くの参加者を迎え、本学への関心の高さが伺えました。

模擬授業はメインキャンパスを



星が丘キャンパス

中心に行い、立ち見が出るほどの盛況となりました。全学科・専攻(コース)で異なる3つ以上の授業の受講が可能で、複数学科を志望している参加者は最大4つの授業に参加することができ、今後の志望決定に大いに役立ったとの感想が聞かれました。

学科(専攻)別入試、学生生活就職、留学に関する相談は、両日とも全学部全学科で実施。一人暮らしや在学中の留学制度、卒業後の進路についてなど、充実した4年間を過ごすために意欲的に相談する参加者も多く見られました。

両キャンパスの各施設では、趣向を凝らした企画で参加者を迎え、4月に開設された星が丘キャンパス医療福祉学部工リアの体験を始め、全学部で支援している英語教育とコンピュータ教育の模擬授業や施設体験など、実際に器機に触れてみて、施設の充実ぶりにあちこちで感嘆の声が上がっていました。

なお、秋のオープンキャンパスは11月7日(日)に両キャンパスで同時開催します。受験生の皆さんのご来場をお待ちしています。

U

大学



図書館情報学科 主催で文化講演会

図書館情報学科主催による平成16年度第1回文学部講演会が6月24日(木)、長久手キャンパスで行われました。講師は慶應義塾大学の須賀千絵先生で、公共図書館の現状をテーマに、日本と英国を比較しながら語っていただきました。

当日は3年生を中心に講演会を予定していましたが、2年生や4年生の参加も多く約200名の参加がありました。

講演後の質疑応答では、大学院生も含む多くの学生から出た質問に、須賀先生は的確に回答くださり、講演と同様に学生

水泳部員が インターハイ、国体で活躍

SH

高等学校

本校の運動部の中でも、毎年素晴らしい成績を上げている水泳部。今年も東海大会、インターハイ、国体へと多くの部員を送り出しました。この夏で部を引退する水泳部部長の落合幾子さん(3年)に、水泳部での活動を振り返ってもらいました。



私たちは、この愛知淑徳水泳部で誰よりも熱い3年間をおくることができました。

今シーズンの成績は、名北総合優勝、東海大会準優勝、インターハイへ10人、国体へは愛知県代表として5人が選出され出場を果たすという好成績でした。このような成績を残すことができたのも、指導して下さる先生方、見守って下さる父母の皆様やその

図書館情報学科主催による平成16年度第1回文学部講演会が6月24日(木)、長久手キャンパスで行われました。講師は慶應義塾大学の須賀千絵先生で、公共図書館の現状をテーマに、日本と英国を比較しながら語っていただきました。

当日は3年生を中心に講演会を予定していましたが、2年生や4年生の参加も多く約200名の参加がありました。

講演後の質疑応答では、大学院生も含む多くの学生から出た質問に、須賀先生は的確に回答くださり、講演と同様に学生



他大勢の応援して下さる方々のおかげです。どんなに辛い練習の時も、チームや自分自身の目標のため、そして何より応援して下さる方々の期待に応えるために頑張ることができました。

基本的に個人競技である水泳ですがこの3年間で私たちは自分一人で記録を伸ばしていくことは難しいというのを学びました。また記録を伸ばすということは、自分にとってもチームにとっても嬉しいことであり、何よりも応援して下さる方々への感謝の気持ちを伝える最善の方法でもあると思います。

私たちはこの3年間を通して心身共に成長することができました。この3年間の経験を、今後の人生に生かしていきたいです。最後になりましたが、3年間ありがとうございました。

ヴァルナ国際バレエコンクールで 米沢唯さんが第1位に



3年生の米沢唯さんが7月、ブルガリアで開かれた第21回ヴァルナ国際バレエコンクールで金賞を受賞しました。米沢さんが参加したのはジュニア(19歳以下)女子の部でロシア人の男性ダンサーをパートナーに、予選から準決勝、決勝と勝ち進み、総合点で見事第1位に選ばれました。

コンクールは約半月にわたる上半パートナーがドイツのドレスデンに在ったため、7月初めからドイツで練習を重ねてコンクールに挑んだそうです。



玉井障先生を迎え 第2回文学部講演会

英文学科主催による平成16年度第2回文学部講演会が7月7日(水)、長久手キャンパスで開かれました。講師は大阪大学教授玉井障先生で、演題は「オスカー・ワイルド、サロメの魅力 言葉と映像の創る世界」でした。

現在、日本ワイルド協会の会長を務める先生は、「オスカー・ワイルドと彼の傑作『サロメ』の創り出す特異で妖艶な世界について、ご自分の体験も含め分かりやすく解説され、聴衆に深い感銘を与えました。講演後の質疑応答も大変活発に行われました。」

決戦で踊ったのはクラシック作品が「白鳥の湖」よりオディールのパド・ドゥ(写真)、コンテンポラリー(現代舞踊)作品が「セフテンパル」の2作品。

3歳から塚本洋子バレエ団でバレエを始めた米沢さん、高校に入ってから毎日2時間、長いと丸1日のレッスンを一日も休まず続けているそうです。

将来の夢は、「内面的なことが踊れるようになること。シルヴィ・ギエムフランス出身で現代最高のダンサーと言われる(の)自己に厳しい生き方にあこがれます」。大学進学後はバレエ留学も考えているとのこと。

昨春には、スイスのロザンヌ国際バレエコンクールでもファイナリストに選ばれている米沢さん、今後も世界を舞台にした活躍が期待できそうです。

2004愛知県 私立中学校 進学フェア開催



新学習指導要領による教育課程が進行し、低学力論争など教育に関する論議も相変わらず盛んな中で私立中学校の教育の現状を知ってもらい、児童やその保護者に学校の選択の幅を拡げてもらおうと、私立中の進学フェアが開催されました。

通算5回目となる今年は、本学を含む県内の私立中学校19校が参加し、7月23日(金)24日(土)の2日間、松坂屋南館8階ホールで行われました。



フェアへの参加者は年々増加し、猛暑の中、各校のブースには多くの保護者や児童が詰めかけ、全体の入場者は2日間で4125人(昨年比114%)と大変な盛況でした。昨年好評だった各校の制服展示を今年も行い、個別ブースでの各校担当者の説明と共に、私学への関心を惹きつけるものとなりました。

本校はブーシの背景を制服の襟をかたどったレイアウトにするなど工夫をし、参加者にも好評でした。受験を控えた6年生だけでなく、5年生以下の児童と保護者の参加も多く、「初めてこのような催しに参加した」との声も聞かれました。

今年も私学教育の自由さと内容の先進性を、多くの人に訴える機会になったと思います。

井上英明先生を 講師に迎え、 文学部講演会開催



7月5日(月)、長久手キャンパスで国文学科・国文学会の企画・運営による第3回文学部講演会が開催されました。

講師の井上英明先生は、「コージランド国立オーランド大学やイギリス国立ロンドン大学で教育研究を行い、現在は明星大学教授として国際的に活躍されています。」

演題は、「日英比較文化の試み ―二つの童話を通して―」。イギリスのパーシングガム作「にげるハークン」と日本の新美南吉作「ごんぎつね」という、いずれもキツネが主人公で幅広く愛読されている童話を取り上げて比較、人間と動物の関わりにもみられる両国の国民性、性格や価値観などの差異は、すでに幼少期における読書体験から育まれているものであることを解き明かされました。





パネル展示

ジェイムズ・ジョイス 巡回パネル展を開催

小説「ユリシーズ」の著者として知られているアイルランド出身の作家、ジェイムズ・ジョイスの人と作品を紹介するパネル展が、6月9日から19日まで、星が丘キャンパスで開催されました。

アイルランドでは「ユリシーズ」に登場する主人公のブルームが首都ダブリンを巡る6月16日にちなんで、この日を「ブルームステイ」と呼び盛大に祝います。

今年は小説中のその日からちょうど100周年でこれを記念してアイルランド外務省が記念展示会を企画。写真と解説で構成されたパネル展が世界各地を巡回し、日本では名古屋会場は本学、東京会場は早稲田大学で開催さ



講演会

期間中の6月12日には特別講演会、アイルリッシュダンスと音楽演奏の披露に続き、駐日アイルランド大使館のオドノフ等書記官を始め内外の参加者によるレセプションが行われ、盛況のうちに幕を閉じました。

ピティナ・ピアノコンペティションで 丹羽祥子さんが入賞



3年の丹羽祥子さんが、第28回ピティナ・ピアノコンペティションでベスト4賞を受賞しました。この大会はピアノ指導者の指導力研鑽及びピアノ学習者の能力向上・心の豊かさや育むことを目的に開催。全国から3万3000人以上と上と世界でも最も参加者数が多く、演奏水準が高いことで知られています。

丹羽さんはG級という26歳以下の部門で地区予選を勝ち抜き、8月21日に行われた全国決勝大会で好成績を収めました。

今年2月にはブルガリアで開かれたソフィア国際ピアノコンクール



でも第1位に輝いた丹羽さん。好きな作曲家はベートーヴェンやショパン、弾いてみたいのはラマニアフだそう。高校卒業後は音大へ進み、将来は、聞いた人の心に残るような演奏ができるピアニストになりたいですね」と夢を話してくれました。

CAMPUS TOPICS



大学

オープンスクール開催



中学校

5月最後の土曜日である29日に1学期最大の行事であるオープンスクールが開催され、今年も1500人以上の小学生と保護者でにぎわいました。

全体会が行われた大アリーナ



その後、校内見学に移り、中学校舎3階及び特別教室での各教科三体験授業、百人一首、民族衣装体験、数学バスル、理科実験、英会話、織物、合唱、コンピュータへの参加、また校内各所で活発に活

では、学校紹介ビデオ、翼を広げてに加えて、CGを用いて新たに作成した新校舎建築計画紹介ビデオの上映、学校長あいさつ、3分間スピーチ、バトン部演技、沖縄研修レポート等盛りだくさんのプログラムで参加者の関心を集めました。

動している運動系、文化系のクラブ活動の見学にも多くの参加者が詰めかけていました。

今年新しい試みとして、美術家庭科、短歌などの生徒作品の展示や、中3の沖縄研修で作成した紅型やシーサーなどの作品、中2の高山調べ学習の成果を展示するコーナーも設け、日頃の本校の教育活動の一端を見ていただくよい機会になったのではないかと思います。

また、この日は中3の生徒全員が登校し、会場係や案内係としてしっかりと役割を果たしてくれました。

福祉貢献学会他 主催で学術講演会



大学



春見静子先生



谷口明広先生

今回の講演会には約80名の学生、教職員が参加しました。「地域で生活をする」という当たり前の目標が、障害をもっているがゆえに、当たり前ではなかった」という福祉の現実に、目からうろこが落ちた」と話す学生もあり、普段の授業では得られないインパクトを得ることができたように思います。

6月21日(月)、星が丘キャンパスで福祉貢献学会・医療貢献学会・環境文化学会主催の学術講演会「障害をもつ人の地域生活を支えるために」が開催されました。

福井県立大学大学院教授の春見静子先生、本学教授の谷口明広先生を講師に、障害をもつ子どもたちと障害者が、地域の中で生活をしていくために必要なサポート、そして私たちや社会に求められる意識の改革の必要性についてお話をいただきました。